

岩木健康増進プロジェクト 全県で展開すれば

「医療費 年244億円減」

中路氏（弘大医学研究科）独自推計

都内でフォーラム ビッグデータ活用

弘前大学が弘前市、県総合健診センターとともに同市岩木地区で繰り広げている「岩木健康増進プロジェクト」を、仮に弘前市全体で展開すれば年間約33億円の医療費節減、県全体なら年間約244億円の医療費節減につながる。弘前大と県が3日、東京都千代田区のホールで開いたフォーラムで、同大医学研究科の中路重之科長が独自の推計結果を披露した。

（高木圭一）

岩木プロジェクトは今年で11年目。千人を超す住民が600項目もの検査をこなす。脳の様子、腸内細菌、運動能力など膨大な調査結

果をビッグデータとして解析し、生活習慣病や認知症などの総合的な疾患リスクの予測につなげるのが狙いだ。厚生労働省によると、



弘大の取り組みについて発表する中路科長

岩木地区の2010年の平均寿命は男77・7歳、女85・7歳で、5年前に比べると男が1・9年、女は0・7年延びている。

中路科長は、厚生省の国民医療費調査などを参考に「岩木地区の医療費節減効果を推計したところ、年間約2億円となる」と解説。同様に弘前市全体と県全体の推計額も説明した。

弘前大を中心にした産学官による、健康で長生きできる社会づくりへの取り組みは2013年、国の「革新的イノベーション創出プログラム（COI STR EAM）」に採択されている。フォーラムは同大のCOIの中間報告の場として開催。健康関連産業、IT企業、学識者ら約600人が詰め掛けた。